顔から特性を判断する傾向の個人差

○鈴木敦命

(東京大学大学院人文社会系研究科)

Key words: face, trait inference, individual differences

目 的

人は他者の特性を顔から推測する傾向をもつ (face-based trait inference, FBTI)。FBTI には人類共通の適応的機序 (顔表情認知への敏感さなど) が関係すると論じられ (Zebrowitz & Montepare, 2008), その普遍性が注目されてきたが (Todorov et al., 2015), 個人差への関心が近年高まりつつある (Hehman, et al., 2017; Suzuki et al., 2017)。そこで, 本研究では, 顔から特性を極端に判断する傾向の個人差を種々の特性別に測定し, その相関構造について検討をおこなった。

方 法

■参加者: 調査1には英語を第一言語とする20～49歳のアメリカ人300名が参加し, 286名の回答を有効とみなした (男性156名, 平均年齢31.74歳 [SD 7.91], 主に白人 [65%])。調査2には調査1の有効回答者の内120名が参加し, 115名の回答を有効とみなした (男性68名, 平均年齢32.32歳 [SD 7.95], 主に白人 [65%])。参加者の募集は Prolific Academic (<https://prolific.ac/>) を通じておこなった。

■手続き: 調査は Qualtrics (<https://www.qualtrics.com>) を用いてウェブ上で実施された。調査1では, 参加者は下記の顔判断課題と人相学的信念尺度に回答した。調査2は調査1の約2ヶ月後に実施され, 参加者は同じ課題に再び取り組んだ。なお, 人相学的信念尺度は上述の研究目的とは直接関連しないため, 以下では割愛する。

■顔判断課題: 顔写真の人物の印象を7つの特性 (Table 1 参照) について6件法の Semantic Differential (SD) 尺度上で評価する課題だった。The Karolinska Directed Emotional Faces (<http://www.emotionlab.se/kdef/>) に収録されている60名 (男女半数) の顔写真を使用した。

■分析: 顔判断課題の得点化においては, SD 尺度上で両極の回答をしやすい傾向を表す「単純極端さ得点」 (simple extremity [SE] scores) と, 調査集団内の優勢回答 (ステレオタイプ) に一致した方向で極端な回答をしやすい傾向を表す「一致性極端さ得点」 (consensual extremity [CE] scores) を特性別に算出した (Suzuki et al., 2017)。具体的には, 単純極端さ得点は SD 尺度上での6件法 (1, 2, 3, 4, 5, 6) の回答を3, 2, 1, 1, 2, 3に変換して算出した。一方, 一致性極端さ得点は, 信頼性の評価を例にとると, 調査集団内で全般的に信頼性評価が高かった上位20枚の顔 (男女半数) に対する信頼性評価の平均から信頼性評価が低かった下位20枚の顔 (男女半数) に対する同平均を引くことで計算した。

結 果

調査1のデータから特性別に算出した単純極端さ得点 (SE 得点) と一致性極端さ得点 (CE 得点) の間の相関係数を計算した結果, SE 得点間では.79～.94, CE 得点間では.51～.83, SE 得点と CE 得点間では.22～.51であった。次に, SE 得点のみのデータおよび CE 得点のみのデータに因子分析を適用したところ, どちらも一因子構造が得られた (Table 1)。2つの得点を併せたデータに因子分析を適用した場合は2因子構造が得られ, SE 得点と CE 得点は異なる因子に負荷していた (Table 1)。また, 調査1と調査2の間で同じ特性の評価にお

ける SE 得点と CE 得点の間の相関 (再検査信頼性) を計算したところ, .556～.825 という比較的高い正の相関が得られた。

Table 1. Results of the Factor Analysis of the Simple and Consensual Extremity Scores in the Face Judgment Task and their Test-Retest Reliability.

		Factor loading				r_{Retest}
		SE only	CE only	SE & CE		
		F1	F1	F1	F2	
SE score	Aggressiveness	.932	–	.881	.098	.794
	Competence	.938	–	.943	-.008	.804
	Dominance	.884	–	.856	.049	.771
	Intelligence	.927	–	.939	-.022	.787
	Morality	.945	–	.982	-.070	.825
	Trustworthiness	.942	–	.951	-.016	.806
	Warmth	.950	–	.917	.064	.801
CE score	Aggressiveness	–	.868	-.010	.881	.687
	Competence	–	.726	.007	.716	.690
	Dominance	–	.714	-.066	.759	.556
	Intelligence	–	.757	.073	.715	.707
	Morality	–	.887	.069	.846	.611
	Trustworthiness	–	.884	-.015	.885	.724
	Warmth	–	.798	-.050	.827	.690
		Proportion of variance explained				
		.867	.652	.429	.327	

Note. SE = simple extremity. CE = consensual extremity. r_{Retest} = test-retest reliability.

考 察

本研究の結果により, 顔からある特性 (例えば, 信頼性) を極端に読み取りやすい人は顔から他の特性 (例えば, 支配性) も極端に読み取りやすいことが明らかになった。つまり, 顔から種々の特性を極端に推論する一般化された傾向の存在が示唆された。また, この傾向は時間的に安定した特性であることも明らかになった。ただし, SE 得点と CE 得点の分析から, ステレオタイプに一致した極端な FBTI をおこなう傾向と, ステレオタイプとは無関連に FBTI を極端におこなう傾向の違いも示唆された。この結果は, 顔と特性の対応づけが必ずしも人類 (ないし同一文化圏の人々) に普遍的なものではなく, 個人特異性が小さくないことを指摘する最近の研究知見と合致する (Stolier et al., 2018)。

引用文献

- Hehman, E., et al. (2017). *J. Pers. Soc. Psychol.*, 113, 513–529.
- Stolier, R. M., et al. (2018). *Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.*, 115, 9210–9215.
- Suzuki, A., et al. (2017). *Soc. Psychol. Personal. Sci.* OnlineFirst. doi: 10.1177/1948550617734616
- Todorov, A., et al. (2015). *Annu. Rev. Psychol.*, 66, 519–545.
- Zebrowitz, L. A., & Montepare, J. M. (2008). *Soc. Personal. Psychol. Compass*, 2, 1497–1517.

(Atsunobu SUZUKI)